

分野 1 : 東アジアにおける地域協力の強化

中期目標 :

東アジア地域の地域協力を通じて関係国・機関との連携を強化し、地域の安定と繁栄を確保する。

過去3年度（令和5～7年度）の主な成果	課題及び今後の方向性
1 【日・ASEAN協力の進展】 ● 毎年のASEAN関連首脳・外相会議に総理大臣、外務大臣が出席し日本の存在感を示すとともに、ASEAN地域を重視する姿勢を明確にし、政府ハイレベルでの信頼関係を醸成した。また、令和7年10月の日・ASEAN首脳会議には就任直後の高市総理大臣が出席し、「インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）」に係る新たな共同声明を発出し、AOIPの主流化及び自由で開かれたインド太平洋（FOIP）の更なる推進に寄与した。 ● 令和5年12月の日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議の開催とその成果文書に基づく幅広い分野での協力案件を実施し、長年にわたる協力関係を内外に印象づけた。また、新たな原動力をもって日・ASEANの協力を推進し、例えば令和7年10月には「日ASEAN・AI共創イニシアティブ」の立ち上げに至るなど、時代に合った具体的成果につながった。こうした協力の積み重ねもあり、ASEANの著名なシンクタンク調査（The State of Southeast Asia Survey Report）では、日本は主要国のうち、8年連続でASEANの最も信頼できるパートナーに選ばれている。	1 【日・ASEAN協力の進展】 ● インド太平洋の中心という地政学的要衝に位置するASEANは、FOIP実現の要であり、ASEANがより安定し繁栄することは、日本を含むインド太平洋地域全体の安定と繁栄にとって極めて重要である。本質的な原則を共有するFOIPとAOIPの実現のため、ASEANの中心性・一体性を支持しつつ、日・ASEAN協力を引き続き強化する。 ● AOIPの優先協力分野（海洋協力、連結性、国連持続可能な開発目標、経済など）とその主流化も踏まえつつ、日・ASEAN統合基金（JAIF）なども活用しながら、共同ビジョン・ステートメント及びその実施計画に基づく具体的な協力を進める。 ● 令和9年は、日本のASEAN外交原則となる「福田ドクトリン」を福田総理大臣が発表してから50周年である。節目の年も戦略的に活用して日・ASEAN関係を更に発展させていく。
2 【ASEAN+3（日中韓）協力の進展】 ● 首脳・外相会議に加え、16の閣僚級会合が定期的開催され、24の協力分野にわたる継続的な意見交換の枠組みを維持してきた。令和5年5月には、日本が主導してきたチェンマイ・イニシアティブ（アジア通貨危機の経験を踏まえ構築された、外貨の資金繰り困難に陥った域内国の通貨と、各国の保有する外貨資金を交換・融通し合うことで（通貨スワップ）、金融危機の連鎖・拡大を防ぐ仕組み）の下、緊急融資ファシリティの創設が合意され、東アジア地域の共通課題に対する具体的かつ実効的な協力が進展している。さらに、令和6年5月からは日本が日中韓（+3）側の調整国を務め、地域協力の推進において主導的な役割を果たし	2 【ASEAN+3（日中韓）協力の進展】 ● 「ASEAN+3協力作業計画2023－2027」に基づき、引き続きASEAN+3協力の一層の発展に貢献していくとともに、これらの取組における日本の具体的な貢献を積極的に発信し、日本への信頼とプレゼンス向上につなげていく。

分野 1 : 東アジアにおける地域協力の強化

過去3年度（令和5～7年度）の主な成果

ており、東アジア地域における日本のプレゼンス向上にもつながっている。

- 東アジア・フォーラム（EAF）や東アジア・シンクタンク・ネットワーク（NEAT）といった政府関係者と民間有識者双方が出席する枠組みや民間有識者のみによる枠組みを活用したことで、民間有識者や経済界との連携が強化され、実務的な提言が蓄積されており、協力の実効性向上に向けた具体的な進展が見られた。

3【ASEAN地域フォーラム（ARF）協力の進展】

- 災害援助、海洋安全保障、テロ・国境犯罪対策に加え、サイバーセキュリティなどの新たな課題を含む分野別会合に継続的に参加するとともに、実務的な協力の積極的な貢献してきた。また、政府ハイレベルで地域・国際情勢に関する日本の立場を発信することにより、参加国間の活発な議論が促進され、ARFの目標である信頼醸成と予防外交に一定の成果が得られた。

4【東アジア首脳会議（EAS）協力の進展】

- ASEAN、米豪印、中露も参加する東アジア地域唯一の包括的な首脳・外相会議に総理大臣、外務大臣が出席し、地域・国際情勢を中心に日本の方針や考えを発信するとともに、戦略的課題についての率直な意見交換に積極的に貢献した結果、地域のプレミア（主要な）・フォーラムとしてのEASの重要性が広がり、EAS諸国間の連携強化に一定の進展があった。
- 令和5年度には、EAS行動計画（2024-2028）が、令和7年度には「EAS20周年に関するクアラルンプール宣言」が採択され、実践的な協力の推進にあたって重要な指針となり、EASの更なる強化につながっている。

課題及び今後の方向性

3【ASEAN地域フォーラム（ARF）協力の進展】

- 国際情勢の厳しさと安全保障環境の不確実性が増大する中、ARFを通じた信頼醸成及び予防外交の重要性は、地域の安定確保の観点から一層高まっている。これを踏まえ、引き続き対話の促進と相互理解の深化に主導的に貢献していく。
- 今後10年の活動指針となる新たな行動計画の策定が見込まれており、同計画の実効性向上に向けた議論に積極的に関与し、その策定及び着実な実施に貢献していく。

4【東アジア首脳会議（EAS）協力の進展】

- 日本を取り巻く安全保障環境が一層厳しさと複雑さを増す中、政治・安全保障を始めとする戦略的課題に関する議論を行うプレミア・フォーラムとしてのEASの重要性がより一層高まっていることを踏まえ、地域の安定と繁栄を実現すべく、引き続き、EASの強化、及び安全保障などについての域内諸国との協力促進を目指していく。

分野 1 : 東アジアにおける地域協力の強化

過去3年度（令和5～7年度）の主な成果

5【日中韓3か国協力の進展】

- 令和6年5月に約4年半ぶりに日中韓サミットを開催し共同宣言を発出した。これにより、3か国協力の弾みがつき、令和7年3月の外相会議を始め、多様な会議や交流事業を実施した。これらを通じて、3か国間の信頼醸成と多層的な協力強化、幅広い実務レベルでの意思疎通や知見の共有を始め、日中韓協力が広く進展した。

6【地域の安定と繁栄を目指したその他の協力の進展】

- 8年ぶりの首脳会合の開催など、積極的な活動が展開されたアジア協力対話（ACD）において、日本の立場を明確に発信し、日本の利益を確保した。また、スポーツや保健分野など、地域の様々なテーマについて意見交換を行い、日本の政策立案に厚みをもたらした。
- 対日理解促進交流プログラム「JENESYS」についても、参加者の専門性、関心分野に沿ったプログラムとフォローアップ事業を継続的に実施した。これにより、草の根レベルの交流の促進と長期的な信頼醸成に加え、日本の政策への理解や日本とASEAN諸国の若者の相互理解の深化、親日派・知日派の発掘・育成につながり、日本の外交基盤の拡充に貢献している。

課題及び今後の方向性

5【日中韓3か国協力の進展】

- 令和7年度末時点で日本議長下による次回日中韓サミットの開催時期は決まっておらず、一部会議や交流も延期・中止となっている。
- 中韓両国の経済的重要性に加え、不確実性が高まる東アジア地域を分断と対立から対話と協調へと導いていくためにも、日中韓3か国が相互理解と協力を促進させることは不可欠であり、その重要性は一層高まっている。こうした観点から、現下の日中韓協力をめぐる厳しい状況下においても、日中韓協力事務局（TCS）が主催する事業などを含め、3か国協力の着実な進展を図っていく。また、日中韓サミット議長国として適切に中韓両国と意思疎通を行い、日本における適切な時期でのサミット開催に向け、準備に努める。

6【地域の安定と繁栄を目指したその他の協力の進展】

- 例年行われてきたACD閣僚級会合が令和7年度には実施されていない。また、毎年議長国が交代することになっている中、令和8年の議長国が決まらず、今後の活動が不透明な状況にある。日本としては、ACDを通じて地域の平和と繁栄に貢献していくために、必要な対応を行っていく。
- 「JENESYS」について、ASEAN諸国との間で将来を担う人材の対日理解の促進、対外発信の強化、親日派・知日派の発掘・育成、恒常的ネットワークの構築に引き続き取り組むとともに、参加経験者（同窓生）を対象とするフォローアップ事業を更に深化させることに努める。

参考：

- 外交青書（第2章第2節第7項：[令和6年版](#)、[令和7年版](#)、[令和8年版](#)）
- [日・ASEAN協力](#)
- [ASEAN+3（日中韓）協力](#)

分野1：東アジアにおける地域協力の強化

参考：

- ・ [日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議](#)（令和5年12月16日～18日）
- ・ [日ASEAN・AI共創イニシアティブ](#)
- ・ [ASEAN地域フォーラム（ARF）](#)
- ・ [東アジア首脳会議（EAS）](#)
- ・ [日中韓3か国協力](#)
- ・ [アジア協力対話（ACD）](#)
- ・ [対日理解促進交流プログラム「JENESYS」](#)